



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **58208999 A**

(43) Date of publication of application: 05.12.83

(51) Int. Cl.

G11C 29/00**G06F 13/00****G11C 7/00**(21) Application number: **57090627**(71) Applicant: **NEC CORP**(22) Date of filing: **28.05.82**(72) Inventor: **YANO YOICHI**(54) **MEMORY DEVICE**

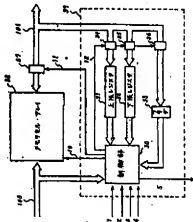
due to program runaway.

(57) Abstract:

COPYRIGHT: (C)1983,JPO&Japio

PURPOSE: To prevent a memory from being destroyed at program runaway, by controlling the memory access and detecting the violation of access, based on a flag representing the types of permission of data access and the range of access address.

CONSTITUTION: An address via an address line 100 for the readout of a memory cell array 38 is inputted also to a control section 30, which discriminates a readout permission and opens a gate 37 based on the set address range by upper and lower limit registers 31, 32 and the types of permission such as readout enable by a flag 33. Thus, the readout data is outputted via a data line 101. On the other hand, when an access violation signal is outputted with the discrimination of the control section 30, the gate 37 is closed and no readout data is outputted. The data write to an array 38 is similar, and even if a large capacity memory is formed as one chip, the write and readout request to an inhibiting area is inhibited and the system behaves as if no memory were in existence to the request of address specified as not in existence, allowing to prevent the destruction of memory



⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—208999

① Int. Cl.³
G 11 C 29/00
G 06 F 13/00
G 11 C 7/00

識別記号

庁内整理番号
7922—5B
7361—5B
6549—5B

③ 公開 昭和58年(1983)12月5日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑤ メモリ装置

東京都港区芝五丁目33番1号日

本電気株式会社内

② 特 願 昭57—90627

④ 出 願 人

日本電気株式会社

⑥ 出 願 昭57(1982)5月28日

東京都港区芝五丁目33番1号

⑦ 発 明 者 矢野陽一

④ 代 理 人

弁理士 内原晋

明 細 書

1. 発明の名称

メモリ装置

2. 特許請求の範囲

データを貯えることのできるメモリと、前記のメモリに対するデータアクセスのアドレス範囲を示す複数のレジスタと、前記アドレス範囲に対するデータアクセスの許可標準を示す複数のフラグと、前記レジスタ及びフラグの示す情報に従って前記メモリへのアクセスとアクセス制御とアクセス違反の検出を行う制御回路と、前記制御回路により検出されたアクセス違反を示すための信号線を持つことを特徴とするメモリ装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明はメモリ装置に関し、特に大容量MOS(金属酸化膜半導体)メモリチップに関するものである。

最近の集積回路技術の進歩に伴い、メモリチップに於て大容量の製品が実用化されるに至っている。このようなメモリチップではその大容量化によりCPU(中央処理装置)の必要とするメモリ全てを1チップでまかなえるようになりシステムの小形化、低コスト化に貢献するが、反面、システム全体のソフトウェアが1チップ内に入ってしまうためプログラム暴走時にシステムの重要なデータが容易に破壊される恐れが生じメモリチップ内でメモリ保護、すなわち

(1) 書き込んではいけない領域への書き込み要求があった時に書き込まない。

(2) 読み出してはいけない領域への読み出し要求があったときに読み出さない。

及び付加的機能として

(3) 存在しないと規定したアドレスへの読み出し/書き込み要求に対しメモリが存在しなかったかのようにふるまう。

の機能が必要になると考えられる。上記(1)は特にRAM(ランダム・アクセス・メモリ)に対して

の要求であるが、(3)はROM(読み出し専用メモリ)の大容量のものに対して必要とされることである。すなわちROMのうち、有効なデータの入っている領域へのアクセスはデータを返し、有効でないデータの入っている領域(余りの部分)へのアクセスに対してはメモリが割り付けられていないようにふるまい、(たとえば)他のRAMチップへのアクセスに転換する外付け回路を付加することを可能にすることによりCPUから見た時のアドレス空間の無駄使いを防ぐことである。

本発明の目的は上記の(1)~(3)を満たすメモリ装置を提供することにある。

従来はこの種のメモリ装置を実現するための制御回路は(メモリ・チップの)外付け回路として実現が試みられているが固定的配線によりメモリアドレスが規定されるため、プログラム実行時に上記(1)(2)を動的に設定することが不可能であったため柔軟な対応が実現できなかった。また上記(1)(2)の制御回路をCPU内に持つシステムも提案されているが、CMOS(相補性MOS)の稼働で

ある低電力消費を生かした電源断の時の電池バックアップシステムを考えた場合、メモリ保護情報が電源断の時に保存されるようにすること、及び不要なCPUリセットによるメモリ保護情報を破棄から防ぐために、上記の制御回路及び保護情報をメモリチップ側にもつ事が不可欠である。

以上を鑑み、本発明のメモリ装置はデータを貯えるメモリと前記のメモリに対するデータアクセスのアドレス範囲を示す複数のレジスタと、前記アドレス範囲に対するデータアクセスの許可種類を示す複数のフラグと、前記レジスタ及びフラグの持つ情報に従い前記のメモリへのアクセスとアクセス制御とアクセス違反の検出を行う制御回路と前記制御回路により検出されたアクセス違反を示す信号線とを持つことを特徴とする。

以下図面を用い、本発明を詳細に説明する。

第1図はメモリ装置のブロック図である。メモリ装置はアドレスを指示するアドレス線100とそのアドレスへの読み出し/書き込みのデータが流れるデータ線101としてそこへのデータの書き込

みを許す制御部10が接続されているメモリセル・アレイ38とメモリアクセス制御回路39から成る。メモリアクセス制御回路39はこのメモリチップへのチップセレクト信号1、リード信号2、ライト信号3、コントロール信号4の外部分からの制御信号と上限レジスタ31、下限レジスタ32、フラグ33で示される保護情報、及びデータの通過を制御するゲート37、34、35、36とそれらの制御線11、12そして全体の制御を行う制御部30から成る。メモリセル・アレイがRAMになっている場合の読み出し/書き込み動作を順に説明を行う。読み出しの場合、すなわちチップセレクト信号1及びリード信号2がこのチップを活性化したとき、アドレス線100のアドレスがメモリセル・アレイに入力され、そのアドレスのデータがデータ線101に接続された箇所へ出力されるが、そのデータの読み出しが許されているかどうかを制御部30が上限レジスタ31と下限レジスタ32とフラグ33によって判断し許されている場合はゲート37が開きデータ線101に出

力される。書き込みの場合、すなわちチップセレクト信号1とライト信号3によってチップが活性化された場合も同様にしてチェックが行われ、書き込み許可のときはゲート11が開き制御線10によりデータが書き込まれるが、不許可の時はゲート11が開かずデータはメモリセル・アレイに行かない。以上の制御部の動作はアドレス入力からデータ入出力までの時間差内に可能を極し制御部の論理回路は複雑でないため通常のメモリ・チップに比しメモリアクセス制御のためのオーバーヘッドはかからないと考えられる。メモリアクセス制御は、下限レジスタ31、上限レジスタ32、フラグ33により行なわれる。すなわち、アドレス線100に示されるアドレスのうち、下限レジスタ31の示すアドレスから上限レジスタ32の示すアドレスまでの範囲にありかつフラグ33の持つ、読み出し可、書き込み可のフラグが示す条件に合致するアクセスであった場合にのみアクセスが正当とみなされる。第2図にその様子を示すが、矩形200はチップのアドレス空間を示し、

斜線で示されるアドレス空間 201 がフラグ 33 の表わすメモリアクセス制御の対象になるアドレスである。斜線の引かれていないチップのメモリ部分は通常のメモリと同様に動く。信号線 5 はアクセスが不法の際に信号をチップ外に示す線であり、たとえば CPU への割り込み信号として使えるようにする。上限レジスタ 31, 下限レジスタ 32, フラグ 33 に対する読み出し/設定はコントロール信号 4 を使うことによりメモリセル・アレイへのアクセスと同様 CPU から読み出し/設定が行える。そのとき信号線 12 によりゲート 34, ゲート 35, ゲート 36 が作動してこの目的を果たす。メモリセル・アレイが ROM の場合、読み出し許可フラグと上限/下限レジスタを、有効でないデータの格納されているアドレスを指し示すように設定しておくことでデータがデータ線 101 に出力されないように出来るため、他のメモリチップがそのアドレスを代替しデータの出入力を行えるように外部回路を設定することが可能になっている。本メモリ装置を CMD8 技術で実現する際は上

記のメモリアクセス制御の情報も電源断の際、メモリセル・アレイの内容と共にバックアップされるため再電源入のときにもひきつづき同じ保護が実現できる。

以上の説明から明らかなように、本発明によればメモリアクセスの制御を基本としたデータ保護を外部回路によらず、またプログラム実行時に動的に設定することができる。更に上限レジスタ、下限レジスタ、フラグを何組も持つようにすることにより、よりきめの細かい保護の実現が可能なメモリ装置に拡張することも容易である。

4. 図面の簡単な説明

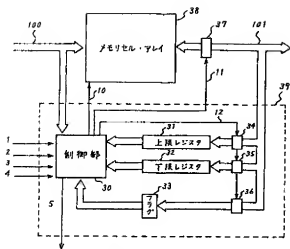
第1図はメモリ装置のブロック図である。第2図はそのメモリチップ内におけるアドレスの見合を示す。図において

1 ……チップセレクト信号、2 ……リード信号、3 ……ライト信号、4 ……コントロール信号、5 ……不許可を示す信号、10 ……メモリセル・アレイに対する番地信号、11 ……データ線に対する

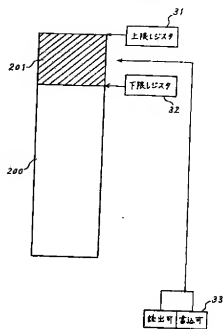
るゲート 37 の制御信号、12 ……保護情報に対するゲート 34, 35, 36 に対する信号、30 ……制御部、31 ……上限レジスタ、32 ……下限レジスタ、33 ……フラグ、38 ……メモリセル・アレイ、39 ……メモリアクセス制御回路、100 ……アドレス線、101 ……データ線、200 ……チップのメモリアドレス空間、201 ……保護されたメモリアドレス空間。

代理人 弁理士 内 原 晋





第 1 図



第 2 図